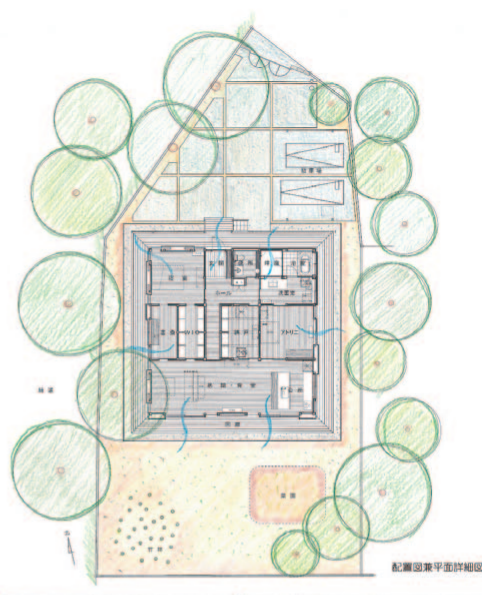
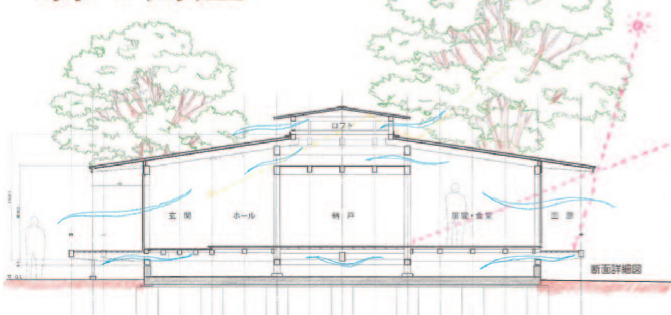


タイトル

森の舟屋-自然に逆らわない「素」の住まい



森の舟屋 - 自然に逆らわない「素」の住まい -



周辺市街地の雑踏が囂のように騒がしく振る敷地が印象的でした。ガーゼンダや家庭菜園が好きな建主さんには、景色を壊さず、庭と建物为一体となった佇まいが適していると、訪れた瞬間に感じました。建物は縦い屋根勾配の平屋です。建物の周囲には庭との距離を縮める浮回廊が廻っています。この距離はつくり場所だけではなく、時には道具置場や、物干し場になったりします。外部を大切に作る建主さんにとって大切な場所になっています。環境負荷を住宅にも求める昨今ではありますが、最も大切なことは、住まい手が愛着を持って住まいを大事にすることだと思います。結果として愛される住まいはどんなに粗末な建物でも長く大切に使用されるのですから。その為につくり手である我々は、自然に逆らわず、建主さんの希望に耳を傾け、時には教育的な立場で素直な家づくりを提案していく必要があります。技術論に走る前に地球を大切に作る家づくりの根本がここにあるように思います。



太い柱と梁に囲まれた開放的なリビング。材の再利用を意識して構造体には余物を使用していない。固定化した二酸化炭素を大気に戻さない為にも、木材を長く使うことが大切である。



家の中心部に設けた換気扇。通気スリットを通して表層から空気が抜れていく。ハイサイドライトからは柔らかな光が室内に届けられる。構造のコアであり、自然素材の心臓部でもある。



1.5m出た軒が雨の外壁と浮き回廊を守っている。木材は製造、廃棄過程でのエネルギー消費も少ない優秀な材料であるが、とにかく水に強い、水との接触を減らすことが長寿命にもつながる。



雨降の日にすべりと覆われるような佇まい。屋根には薪や炭や木の灰が落ちることも、雨樋は取り付かず、雨水はそのまま地面に浸透する。外壁には建主さんが愛した杉板を張った。

講評

市街地の一角にある住まいとは思えない緑豊かな環境の中に建つ木造平屋住宅が、今回の受賞作「森の舟屋」である。方形のシンプルな間取りは、回廊によって内と外を柔らかく繋いでいる。また、高床により、床下にも風が流れ、さらに、窓から取り込まれた空気は、ゆったりと腰屋根のロフトを通して流れていく。まるで風の道があるように、エアコンに頼らない自然に寄り添った住まいを実現している。環境と共に生きる姿勢が、木の素材を豊富に使用したデザインに、明快に表現された住まいとして高く評価できる。(審査委員:定行 まり子)

データ

所在地 ■ 越谷市
 構造・階数 ■ 木造・1階
 敷地面積 ■ 544.62㎡
 延床面積 ■ 118.98㎡
 建築面積 ■ 146.84㎡
 完成年月 ■ 平成22年6月

総工事費 ■ 約3,400万円
 居住者構成 ■ 15歳以上65歳未満:2人
 設計者 ■ 株式会社けやき建築設計
 代表取締役 畔上 喜平
 施工者 ■ 株式会社けやき建築設計
 畔上 順平

住まい手から一言

私が設計を依頼するにあたり、お願いしたのは「自然素材にこだわった住宅を」というものでした。さらに緑が多い土地柄であることから、「景観を壊さない」ことの重要性をご提案いただきました。今では珍しい平屋住宅の設計をお願いすることになりました。

○夏は涼しく冬は比較的暖かく過ごすことができていること
 ○木材のいい香りでよく眠れるようになったこと
 ○部屋間のアクセスがしやすく、ストレスを感じないこと。
 住んでみて感じる事がたくさんあります。